

- ◆企画名 ほっこり相談室の開室  
日 程 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 ※期間中、月曜・水曜・金曜に開室  
場 所 総合学生会館凜風館 1 階 サポーターズルーム  
参加者数 15 名 (ピア・サポータ 12 名、研修生 3 名)  
目 的

大学生活というのは、流動的な場や密な対人関係を過ごす場所であり、その環境に上手になじむことができず、大学を自分の居場所とすることに困難を感じている学生も多い。そうした学生たちが抱える「大学内に安心できる居場所がない」「学内の相談機関に行くほどではないが、誰かに話を聴いてほしい」という様なニーズに応えるため、より身近な立場で話を聴くことを目的とする。

#### 内 容

本事業では、本学全ての学生を対象に同じ関西大学の学生である KU サポーターズのメンバーが相談員を務める「ほっこり相談室」を開室し、トレーニングを受けたメンバーが相談員として対応する。また、開室には 2 人以上の相談員の確保を必須とした。

#### 効 果

本年度のほっこり相談室はのべ 17 件の利用があった。そのうち繰り返し来室される利用者もあり、利用者の心の拠りどころとして、一定の効果があったことが考えられる。また、本年度は相談員のトレーニングを 3 つから 4 つに増やし、研修生とピア・サポータの 2 人体制で開室を可能とするなどして開室時間を増やし、利用者にとってもより身近な存在となったと思われる。

#### 改 善 点

メンバー不足などから開室時間が少なかった。より多くの利用希望者に利用してもらうためには、メンバーを確保するなどして開室時間を増やす必要がある。また、従来から問題視されている KU サポーターズ及びほっこり相談室の認知度の低さについては、ほっこり通信や企画等を通して周知に力を入れたものの改善出来なかったため、来年度の課題である。

#### 感 想

KU サポーターズは数年に渡り、ほっこり相談室を軸に活動してきたが、開室時間の減少やそれに伴った利用者数の減少はやはり改善すべきだと思う。ほっこり相談室は利用者が多ければ良いというものでもないが、多くの学生に存在を知ってもらい、必要としている学生に利用してもらいたい。

本年度は繰り返し来室される方が多く、また、「話を聴いてもらいスッキリした」「来て良かった」などの声をいただくことも多かった。利用者にとって居心地の良い空間を、来年度も引き続き提供したい。